

新刊紹介

なるが、「グローバリゼーション」を不可避的なものとして受け入れることを最良の道と考える常識を疑ってみるために、一読に値する本である。

(ダイヤモンド社・2000年12月刊・1800円)

(なかはら こうじ・会員・九州国際大学)

都民要求実現全都連絡会編

『データで見る Tokyo2000』

愛知労働問題研究所編

『激動する愛知の統計 2001 年版 労働と生活』

兵庫県労働運動総合研究所編

『雇用と賃金を守り安心して暮らせる 21 世紀を 2001 年国民春闘白書』

藤吉 信博

都民要求実現全都連絡会『データで見る Tokyo2000』、愛知労働問題研究所『激動する愛知の統計2001年版 労働と生活』、兵庫県労働運動総合研究所『雇用と賃金を守り安心して暮らせる21世紀を 2001年国民春闘白書』の3冊の統計資料集に共通する最大の特徴は、いずれも各地方の労働運動や住民の要求実現、民主的な運動の発展に寄与することを願って、研究者と労働組合幹部が密接な協力のもとに編集・発行されたものであるということである。こうした実践的観点から編集に携われた関係者の努力にまづ敬意を表したい。

それぞれの冊子はそれぞれに特徴をもっている、それらの特徴を簡潔に紹介したい。

東京地方労働組合総連合（東京労連）が編集した『データで見る Tokyo2000』は、東京都や市町村が部局ごとに発表している膨大な資料を収集し、労働組合運動、住民運動、民主運動などの運動にとって必要な役に立つ資料を精査して、総合的にまとめた資料集である。運動の発展に欠かすことができない基礎的な統計集といえよう。

構成は「都政のあらまし」、「都と区市町村財政」、「福祉・保険・医療」、「産業構造と地域経済」、「労働」、「環境・公害・防災」、「都市開発」、

「住宅」、「教育」、「基地と安保」の10章編成である。

愛知労働問題研究所が編集した『激動する愛知の統計 2001年版 労働と生活』は、5年ぶりの改定版で、トヨタを中軸にした愛知県の労働運動、住民運動、民主運動との関連で分かりやすく解説している。

構成は、「経済」、「労働」、「生活」、「運動」の4編から構成され、特に、第4編の「運動」は愛知における労働運動、民衆運動の実状を親子劇場の取り組みまでも網羅した県民運動を鳥瞰できるように工夫されている。

今回で13回目を数える兵庫県労働運動総合研究所が編集した『雇用と賃金を守り安心して暮らせる21世紀を 2001年国民春闘』は、「21世紀の仕事、くらしと運動」、「雇用と賃金」、「労働運動の現状と方向」、「兵庫県下の状況」の5章構成で、原則として見開きページ形式で図表と解説をおこない、Q&A方式での論点解説があり、研究所長である菊本神戸大学教授のロンドン報告などの読み物やコラムなども取り入れられ、読みものとしても独白色を出す工夫がこらされている。

このように、地方における資料集発行の特色は、地方の運動と密接に関わった、運動に役立つ資料集であり、こうした資料集が発刊される意義は、地方の労働運動をはじめ住民運動、民主運動の発展にとってきわめて大きいことは疑いない。

都民要求実現全都連絡会『データで見る Tokyo2000』（2000年11月刊・東京労連責任編集・販価2000円）

愛知労働問題研究所『激動する愛知の統計2001年版 労働と生活』（2001年1月刊・愛知労働問題研究所編集・販価1500円）

兵庫県労働運動総合研究所『雇用と賃金を守り安心して暮らせる21世紀を 2001年国民春闘白書』（2000年12月刊・愛知県労働運動研究所編集・販価1200円）

(ふじよし のぶひろ・理事)